

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成28年 12月 第190号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

老いの冒険者が「空き家」に住めば —老いと死が創造性を発揮する街を目指して—

今、『空き家対策』が地方創生の中心課題の一つになってきています。全国各地で多くの商店街がシャッター街になり、空き店舗の使い道を探っています。住宅街においても、独居老人が施設に入り、或いは亡くなると空き家になり、近隣住民の不安要素になります。空き家・空き店舗の使い道の創意工夫に対して、補助金を出す地方公共団体も増えています。兵庫県では、『空き家を活用したグループハウス設置運営要領』を創り、補助金を設定して、高齢者が地域社会で『共同生活を行う場』の確保策を提案しています。

今後、団塊世代の高齢化に連れて、急激に『人口減少社会』に入り、『超多死社会』に成ります。『人の死』が『幸福社会への途』につながる営みでなければ、30年後の世は『真っ暗闇』です。超多死の社会でこそ、『死』は『世を照らす光』であって欲しい、と願います。

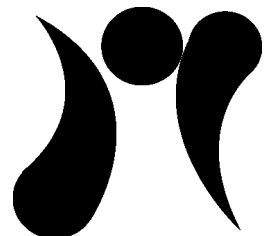
現在の様に『健康寿命を延ばそう』、『健康でこそ幸せ』、『死は避けるべきもの』として医療や介護の制度を設定し運用する事は、『超多死の時代にそぐわない』のではないかと強く危惧しています。

人間は、遺伝子を伝え終わった後も相当に長く生き、死期が近づくと集団の中で仲間に身を任せて、最期を委ねます。『死を迎える営み』を通して、遺伝子では伝わらない『思想や人間性・社会性』を仲間に伝えるのです。そして社会を受継いだ後輩達が、大きな自然災害に際しても、人間同士の戦争においても、多様に柔軟に対応して社会を変化・発展させ、永く歴史を続けて来ました。

『集団の中の死』は、『人間ゆえの崇高な営み』であり、『死期を悟り、仲間に委ねる最期』は、自然の摂理に添った『人間ゆえの本能』なのです。一人ひとりが集団の中で迎える『死の営み』こそが、人間社会が変化・発展しながら永く続いた『原点』なのです。

とすれば、死を巡る営みが『世を照らす光』を秘めている事に成り、超多死社会の次の世は、『明るく輝いて』いるはずです。

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

『老いと死の過程』は、次世代が創る世を明るく照らす光を放つ『灯台』の役目を果たす営み、だと言えるのです。

今、最期を迎える高齢者の『8割近くが病院』で亡くなります。1951年には8割以上の方が『自宅で最期』を迎えていたのが、最近では自宅が1割強、病院が8割弱となっています。病室では医療処置を優先して、日常生活を切り離す為、生活感が希薄です。生活を実感する音や匂いが生じる営みが無く、生きている充実感を感じたり、感じさせたりする瞬間も生じ難く、「臓器の活動」に注目して息をひそめる様な空気の中で、最期を迎える事に成ります。

其処では、『生命の終焉』のみが強調され、死後にも続く人と人との関係性や、其処に潜む創造性への関心が希薄で、『死んだら終い』の意識が強くなります。そして『家族の縁も、世間の縁も、葬式も、墓も、要らぬ世』を望む人々が増え、『無縁社会』が拡がりました。

しかし死は、全ての社会関係を終焉させる営みではありません。夫婦や親子・兄弟・友人関係の中で、死後にもその関係性が続き、思い出や夢の中に死者が現れ、様々な形で感性や感覚を刺激し、思想や価値観にも影響します。幼児の心の中に『三つ子の魂』として宿り、その人生を永く支えます。生前に築いた関係性の延長線上で、死は極めて『創造的』なのです。今、多くの方が『生活の中で出逢う死』は、その後の人生において様々な力を発揮する、『創造性を秘めた営み』だと気づき始めました。

今の世の高齢者には、平均して10年程の『要介護期間』が在ります。ピンピン・コロリでは望めない、『最期を仲間に委ねる準備』の時間です。他の動物とは違う『人間ゆえの本能』に添って仲間に身を任せ、子や孫や後輩達に上手く『バトンタッチ』をする為の『助走』です。

助走は、社会の一員としての『生活』そのものです。『社会参加と自己実現』の途でこそ、バトンが受継がれ、『故人の遺志』が引継がれます。リスクのない人生はチャレンジも勝利もなく、植村直己氏の冒険と同じく、老いの途を歩む高齢者には、『生活はいつも冒険』なのです。

『空き家を活用したグループハウス』は、『地域の中でバトンタッチ』を行う為の『大きな可能性を秘めた試み』だと感じます。当施設から徒歩3～4分の処に、施設で亡くなられた方とご利用者の住まいで、隣接した2軒の空き家が在ります。ご家族の了解を頂いて今、県の提案を受けた「グループハウス」としての活用を考えています。

定期巡回・随時対応型訪問介護・看護や小規模多機能型居宅介護で生活をサポートすれば、『老いて介護される身』が人間ゆえの文化を伝え、地域を明るく照らす『灯台』になる途が拓けるのではないかと期待しています。「老いと死」の途は予行演習のない、誰にも初体験の『未知との出逢い』です。多様で柔軟な『人間ゆえの社会性』を伝える、最後で最良の場面です。

新築のバリアフリー仕様とは違い、『空き家の活用』では不自由さの多い暮らしになるかも知れません。しかし、多様に柔軟に創意と工夫を繰返して、高齢者が地域社会の一員として生きる『自己実現の途』を、最期まで『伴走』したいと願っています。

地域の皆様のお知恵をお借りし、ご協力を賜りたいと願います。

ボランティアについて

阪神淡路大震災後に全国から多くのボランティアが駆け付け、ボランティア元年とよばれました。語源は志願者、篤志家、志願兵など。自発的に自ら進んで地域社会や国際社会で困難な状態にある人に手を差し伸べる人や組織、団体との定義があります。

加古川市には社会福祉協議会、市民団体連絡会、県の委託を受けたシミズシズ、各公民館のボランティア活動、コープのボランティアなど個人も含めて多くの方がそれぞれ登録して活動しておられます。

せいりょう園は1985年開設以来、週間、月間、年間の行事があり大勢のボランティアさんが関わって下さっています。一自彊術体操、療法、映画会、カラオケ、認知症カフェ、書道、車いす修理、買い物外出、喫茶外出、歌、踊り、手品、演奏活動等々

1985年当初は、ご縁があった童話作家；森はな先生が読み聞かせに来て下さったり、社会福祉協議会のボランティア「やまばと」さん、ご近所の方々の「フライデー」さんが、お茶のサービスをして下さっていました。

ボランティアさんが来て下さり、ご挨拶や日常のさりげない会話をすることが、利用者・職員にとって日常とは違う社会性を発揮する場となっています。

ボランティア Tさんの声

はじめは手探り状態で顔と名前が一致しないし、お年寄りからは「先生、先生」と呼ばれるが、逆に教わることはばかりだった。接する事で自分自身の気持ちちがやさしくなったり、自分自身の老後を考える機会になっている。またボランティア活動を通じて仲間ができ自分自身の人間の幅を広げることが出来てきたように感じている。

施設を住まいとする方も最期までその人らしく地域の一員として暮らすには家族、友人、職員、ボランティアさんと多くの方が関わってくれることで高齢者の生活は、より豊かになります。日ごろの職員とのつながりだけでなく、ボランティアさんとの交流は高齢者にとってもなくてはならない出会いの場となっています。その活動に日々感謝しております。

(老人介護支援センター 武井博子)



平成28年11月17日(木)

「アトリエ一番星」で、童謡・唱歌の学校のメンバーが、秋風の吹く中 温かい歌声を披露。



コーラス指導者の日本舞踊のような流麗なタクト姿と、団員の息の合った歌声にうっとりされる方も多く、そして当意即妙の「楽曲解説」に皆さん昔を思い出し、ウンウンと頷いておられました。

ウサギ追いかの山・・・「ふるさと」の歌に、ある方は数多い夜店で舌鼓を打ち、伝統の音楽や踊りで思いっきり楽しんだ故郷を思い出し、思わず涙が出たと言われました。「荒城の月」では参加者全員の大合唱が会場内に響き渡り、さながらコンサートホールに変身したかのようでした。(デイサービス 小山壽美男)



『職業人と語ろう』

地域密着型特養 介護福祉士 松尾 繁

11月の11日と17日に『職業人と語ろう』というイベントに参加してきました。このイベントは様々な職種の人達が野口小学校と野口南小学校を訪問し、そこで小学生を相手に『仕事』や『生き方』についての考え方や体験談を話し、語り合うというものでした。せいりょう園では今回初めてこのイベントに参加しました。

私がイベントに加わることになったきっかけは先輩職員からの勧めでした。「イベントで行う発表に向けて打ち合わせをしたい。どんなことを話すのか考えてきて欲しい」とのことでした。打ち合わせの日まで、私は自分の仕事についてどんなことを語ればいいのかと悩みました。考えを巡らせていくうちに、私は自分がこの仕事を始める前のことを思い出しました。正直なところ、私はこの仕事を始める前までお年寄りが身体の機能が低下し、これまで出来ていたことが出来なくなったり、亡くなってしまったりすることを、「悲惨だ」とか「かわいそうだ」という風感じていました。しかし、実際に仕事をしていく中でそういった感情は消えていきました。小学生を前に語るのだとしたら、自分が仕事をしていく中で、考えが変わったことについて話したいと思いました。

それから最初の打ち合わせを行い、参加メンバーが集まり意見を述べ合いました。そして発表の中で小学生にDVDを視聴してもらうことに決めました。そのDVDはお爺さんとお婆さんが登場し、お爺さんがお婆さんを看取るシーンのあるものでした。普段、人の死を目の当たりにすることが少ないであろう小学生がDVDを視聴し、どのように感じるのか。それは実際にその時まで想像のつかないものでした。

それから発表に向けて何度も打ち合わせを行いました。また、打ち合わせの中で「発表の中に、せいりょう園の理念を含ませた方がいいのではないか」という意見が挙がりました。正直なところ、私はこれまで自分の仕事についてや、せいりょう園の理念について深く考えることはありませんでした。しかし、打ち合わせを重ねるうちにそれらのことに対して深く考えるようになりました。また、「自分の発表しようとする内容がせいりょう園の理念に反しないだろうか」と凄く悩みました。



平成28年11月22日(火) 音楽レクリエーション



「月の砂漠」のワンシーン

ボランティアさんより、「自分が演奏や芝居をして観て貰うだけより、参加者共々一緒に楽しむ方が良い」と話して下さいました。曲に合わせてお手製の楽器、衣装、大道具を使ってお年寄り、職員も催しを楽しみました。

曲がかかると自然に歌いだし、雰囲気を楽しんでいたように感じます。地域の方々も気軽に参加出来るように楽しく盛り上がり、色々な方と共につないでいけたら・・・と思います。又、ボランティアさんとの関わりで利用者の生活が広がる環境を今後も大切にしていきたいです。

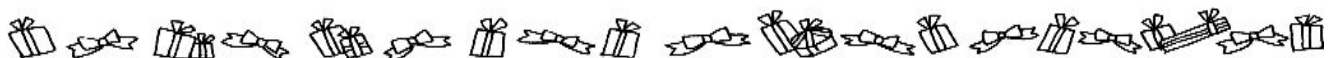
(ユニット型特養 曾我部成生)

ある打ち合わせの中で「松尾君は、お年寄りが身の周りのことが自分では出来なくなったり、亡くなったりすることはかわいそうではないっていうけれど、それはどうしてなのか」と尋ねられました。私は少し考えた後に「単純にかわいそうだという風に思いたくない。身体の機能が低下してこれまで出来ていたことが出来なくなってしまうたり、亡くなってしまうとしても、それはその人の選択した人生の結果だと思う。かわいそうだと思ってしまうことは、その人の人生を否定したり、ないがしろにしてしまう気がする。私は人の人生を尊重したい。この仕事を始めてそう考えるようになったからです」と答えました。その日の打ち合わせが終わった後に先輩職員から「松尾君の考えは、せいりょう園の理念に決して反するものではないから自信を持ったらいいい」という風に言ってくれました。これまで悩んでいたことが吹っ切れたような気がしました。打ち合わせの中で沢山のひとと意見を交わすことが出来て良かったと思いました。



そして本番の日が来ました。最初はそわそわしていた小学生達も発表が始まると集中して向き合ってくれました。DVDを観た感想を聞くと、色々な感想が返ってきました。お婆さんが亡くなってしまうのを見てかわいそうに感じた子もいれば、亡くなった時の顔が穏やかに感じたと答える子もいました。私の介護の仕事に対しての思いや考えにも、しっかりと耳を傾けてくれました。発表の最後には沢山の質問も寄せてくれました。しっかりと反応を示してくれる小学生達の姿がとてもうれしかったです。

このイベントに参加することで、自分たちの仕事について誰かに知ってもらふことの大切さ、そして難しさを強く感じました。これからもっと介護の仕事が人々に理解してもらふことを切に願い、日々精進していきたく感じました。



**「職業人と語ろう」に参加した小学生から、感想文が届きました。
抜粋して少し紹介します。**

- 最初に見させてもらったDVDは、おじいちゃんやおばあちゃんが亡くなっていて、身近にいる人もいつかは亡くなってしまうんだなと改めて感じました。
- 私は介護の仕事の話聞き、DVDを見て、これからも出会っていく人、私にとって大切な人と、一分一分を大切にしていきたいと思います。
- 介護の仕事は悲しい時つらい時もあるけど、一番に人と仲良くなれて、命の大切さが分かる仕事だと気づきました。
- 介護というのは、死と向き合うことがあるというのがすごいと思いました。
- DVDで、おばあちゃんが死んだところを見て、ぼくは怖いじゃなくて辛い顔を見ず、やすらかに眠るんだと思って、よかったなと思いました。
- 介護福祉士は、おじいちゃんやおばあちゃんのお世話をするだけだと思っていたけど、看取りをするのは知らなかったです。亡くなるまで幸せに生きられるようにする介護福祉士は、すばらしい仕事だと思いました。
- 介護士の役目は何でもしてあげるんじゃなくて、となりで見守ってあげることが大切で、ほんとうに手伝わないといけない時だけ助けることが良いと分かりました。
- 色々な仕事があったけど介護の仕事が一番大人になって、やりがいがある仕事だなあ〜と思いました。



仏教講話 12月5日(月)



善照寺 後住 松尾 次朗 師

いよいよ師走の頃となりました。今年最後の仏教講話は加古川町平野にある善照寺の松尾次朗師です。これまでに何度か北村篤隆ご住職にはご講話して頂きましたが、今回は息子さんの松尾次朗師にお越し頂きました。

自己紹介を兼ねてご自分のお話から始められました。

「私は門徒の方からは『後住』と呼ばれています。住職の後継者という意味のようで、先代は『前住』と呼ばれます。お寺は世襲が多いのですが、私は元サラリーマンで、縁あってお寺の娘さんと結婚し、そこから仏教の勉強をしました。それまでは、仏教に触れる機会はほとんどなく、仕事関係で、お通夜・お葬式に参列するくらいのものでしたから、のし袋の書き方さえも分からない状態でした。中でも順番に前へ行って一人ですのお焼香は緊張して、前の方がするのをじっと見てまねておりました。

そうした経験から、ご法事ではお焼香の作法をお話しています。浄土真宗西本願寺派では、お香を1回つまんでそのまま炭の方へ入れ合掌礼拝しますが、同じ浄土真宗でもお東さんになると、お香を2回つまみます。宗派によってそれぞれ違いますが、自分の宗派の作法を覚えておけばそれで良いと思います。ご自宅でご法事をされる場合は、まず私がやってみせてから、お焼香をして頂きますが、お寺の本堂でする場合は本堂の造りからやって見せる事が難しく、口頭で説明しています。そうすると、順番にお焼香をしていく中で、誰かが違う事をする、その後続く人は前の方がされたようにされます。言葉を相手に伝えるのは難しいものです。」

お焼香の話から、人と話をする時に言葉が相手にどれ位伝わっているかのお話に移りました。

「皆さん、どれくらい相手に伝わっていると思いますか？実は大体10%も伝わっていないそうです。これは相手の言葉を聞いているつもりでも、表情・身振り・声のトーン等を見て、実際の言葉はあまり聞けていないからです。私も僧侶になってお話しを聞かせてもらう機会が増えました。40分位から1時間半位の話を受けますが、例え話等もあり、引き込まれてあっという間に時間が過ぎてしまいます。自宅に帰ってから家族に聞いてきた話を伝えようとすると10分も経たずに終わってしまいます。きちんと聞いたつもりでも10%位しか聞けていないという事です。これがノートをとっていたり、ボイスレコーダーでとっていたりすると聞けていなかった事を後で何度も聞く事が出来ます。お経はどうでしょうか？お経とは、お釈迦様が2500年前に説かれたお説法です。2500年も前ですから、お釈迦様のお話を聞きながらメモをとったり、まして録音するなんて出来なかったでしょう。尊いお話を次の世代に伝えようと、記憶に頼りながら、たくさんの方が聞いて伝えられていきました。何百年か経ってインドから中国へ伝えられました。当時インドの言葉を中国の言葉に訳すのは大変だったでしょう。日本に伝えられた後も中国の言葉だったわけですから、これまた当時の人々も大変な思いをしたことでしょう。今お経本を開いてみると、漢字の横にはすべてフリガナが書かれています。分かり易く日本語に訳された文章もみられます。これらは何とか教えを伝えていこうとされた人々の思いが形になったものです。そう思うとお経本も単なる印刷物ではない、そこにはいろいろな人の思いや働きが詰まっているのだと感じます。私達

の身の周りも全てそのように説明できると思います。目に見えている物だけでなく、いろんな人が私達に働きかけて下さり、支えてくれています。過去からもいろんな人や物に支えられてきました。自分に何が出来るかを考えてみると、おかげ様、ありがとうという気持ちを表す事しかできません。ありがとうと感謝の心で生きていたいと思います。」

と話されてご講話は終わりました。若くお名前の通り朗らかで、分かり易く丁寧にお話し頂きました。ありがとうございました。

来年1月の仏教講話はお休みです。

(岡村 照代)



平成28年11月7日(月)～11日(金) トライやるウィーク



今回より、全ての職員が一日の振り返りに参加します。「クラスの子は認知症を知らない。もっと知ってほしい」という意見には、中学生ながら鋭いなと感心しました。

他にも私達職員には無い着眼点や純粋な意見に驚き、新鮮でした。

先日「職業人と語ろう」に参加した時、伝えることの難しさを知りました。今後、外部への発信や受け入れの参考になるかもしれません。(グループホーム 別府克彦)



平成28年11月15日(火) 野口南小学校2年生の「まち探検」



子供達が、せいりょう園の中を見学し、気になったこと、聞いてみたいことを、せいりょう園の利用者にインタビューしていました。「何をしている所なの?」「どうしておじいさん、おばあさんがいるの?」「おじいさん、おばあさんはここで何をしているの?」等の素直な質問に、一つ一つ考えて答えました。利用者も子供達もお互いに、同じ地域の中で共に生きていると実感する時間になったと思います。

(地域密着型特養 谷川正樹)

【せいりょう園空き情報 平成28年 12月15日現在】

- ・サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」:
A(19.07㎡) 8室、C(24.67㎡) 4室、D(25.16㎡) 2室、E(25.80㎡) 2室
- ・サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」: A(33㎡) 5室、C(39㎡) 1室
- ・ケアハウス: 空きなし (バス・トイレ・キッチン付 24㎡)
- ・グループホーム: 1室 ・グループホームまどか: 空きなし

【問合せ先】 せいりょう園 Tel(079)421-7156/(079)424-3433

せいりょう園 陶芸教室イベント

～土で、おひな様を作りましょう！～



開催日：1月29日（日）10:00～12:00
1月30日（月）10:00～12:00 1日限定 各10名まで
場 所：せいりょう園内アトリエ一番星 参加費：2000円（材料費）

3月、ひな祭りに、ご自分で作られた「おひな様」を飾りませんか？
オリジナルひな人形を作ります。信楽の土で作ります。
皆様、是非ご参加下さいませ。親子での参加もOKです。
お問い合わせは、せいりょう園（079-421-7156）までお願いします。
ご応募お待ちしております。

指 導：喜多 千景
中本 万理恵



☆男性介護者の為の料理教室のお知らせ☆

曜日；毎週金曜日 時間；13:30～15:00
参加費；1回300円程度
場所；小規模多機能「輝きの家ながすな」ダイルーム



1月の献立予定 9日；551に負けない豚まん 13日；備蓄食品を使って…
20日；手作り味噌に挑戦！！ 27日；手打ちうどん&天ぷら

★お漬物を作りたいと思っています。【担当】藤本あや（調理師・栄養士）
※年齢・性別は問いません。お気軽に、のぞいてみて下さい。

ロンドンアンサンブル実行委員会より

皆様お元気でお過ごしでしょうか。

さて、今年のロンドンアンサンブル日本公演は、ピアニスト松村美智子が病氣療養中の為、大変残念ながら休止せざるを得なくなりました。

病氣が快癒され次第、次回公演を行う所存ですので、宜しく願いいたします。

寒さに向かう折から どうぞお体大切にお過ごし下さい。